

# かごしま 市議会だより

2007 No.297

平成19年5月1日  
編集・発行／鹿児島市議会  
☎099-224-1111代表  
ホームページアドレス <http://www.city.kagoshima.lg.jp/>

第1回臨時会

第1回定例会

## 平成十九年度当初予算可決 市立病院のあり方及びJIT跡地の活用策等 に関する調査特別委員会を設置



### 地球にやさしい循環型社会を目ざして

～新北部清掃工場 稼動～

#### 新年度予算の概要

- ①安心して健やかに暮らせるまち  
〔安心健康都市〕
  - ・低地区総合浸水対策緊急事業
  - ・障害福祉サービス利用者負担軽減事業
  - ・親子つどいの広場（仮称）施設整備事業
  - ・にこにこ子育て応援隊支援事業
- ②豊かな心と個性を育むまち  
〔個性創造都市〕
  - ・特別支援教育指導員配置事業
  - ・ブックスタート事業
  - ・地域力再生検討委員会（仮称）運営経費
- ③人と自然にやさしい快適なまち  
〔快適環境都市〕
  - ・環境未来館（仮称）整備事業
  - ・環境学習カリキュラム作成事業
  - ・環境カレッジ設立事業
  - ・まちなみ景観形成計画事業
- ④機能的で多彩な交流が広がるまち  
〔交流拠点都市〕
  - ・谷山地区連続立体交差事業
  - ・グリーン・ツーリズム推進事業
  - ・ぐるっとかごしまスタンプラリー事業
  - ・かごしま再発見地域めぐり事業
- ⑤にぎわいと活力あふれるまち  
〔産業活力都市〕
  - ・中心市街地活性化推進事業
  - ・いづろ・天文館地区にぎわい創出調査事業
  - ・桜島観光振興プラン推進事業
  - ・甲突川右岸緑地整備事業
  - ・大河ドラマ「篤姫」対策推進事業
- ⑥基本構想の推進にあたって
  - ・電子納付システム導入事業
  - ・コールセンター構築事業

〔第一回臨時会〕  
平成十九年第一回臨時会  
は、二月五日に開かれ、「市立病院のあり方及びJIT跡地の活用策等に関する調査特別委員会」を新たに設置しました。

〔第一回定例会〕  
平成十九年第一回定例会  
は、二月十六日から三月二十六日までの三十九日間にわたって開かれました。

この定例会では、平成十九年度鹿児島市一般会計予算、各特別会計予算および企業会計予算、「鹿児島市乳幼児医療費助成条例一部改正の件」、「鹿児島市議会議務調査費の交付に関する条例一部改正の件」など議案八十一件をいずれも原案どおり可決しました。

#### 可決された主な議案の要旨

- ▼工事請負契約締結の件（二件）
  - ・鹿児島市環境未来館（仮称）新築本體工事
  - ・鹿児島市環境未来館（仮称）新築展示工事
- ▼鹿児島市国民健康保険条例一部改正の件
  - ・国民健康保険税の介護納付金課税額に係る税率および課税額から減額する額を改めるとともに、地方税法の一部改正に伴う関係条文を整理するもの
- ▼鹿児島市乳幼児医療費助成条例一部改正の件
  - ・医療費の助成対象となる幼児の年齢要件を六歳未満から六歳に達する日以後の最初の三月三十一日までに引き上げるもの
- ▼鹿児島市農村研修施設条例一部改正の件
  - ・新たに八重棚田館を設置するとともに、農村研修施設の使用料の区分、額等を統一するもの
- ▼鹿児島市海づり公園条例一部改正の件
  - ・鹿児島市桜島海づり公園の管理を地方自治法の規定に基づき指定管理者に行わせるため、条文の整備を行うとともに、同海づり公園を無休にするもの
- ▼鹿児島市宅地開発に関する条例制定の件
  - ・都市計画法の規定に基づく開発行為の規制に関する事項、宅地開発に係る事前説明等の手続に関する事項その他宅地開発に関し必要な事項を定めることにより、許可事務の透明性の向上および適正化を図るとともに、良質な宅地開発を誘導し、もって良好な都市環境の形成に寄与するもの
- ▼鹿児島市副市長定数条例制定の件
  - ・地方自治法の規定により、副市長の定数を定めるもの（二人）
- ▼鹿児島市議会議務調査費の交付に関する条例一部改正の件
  - ・政務調査費の交付時期を毎月交付から半期交付に改めるとともに、収支報告書提出に際し領収書等の証拠書類の写しの添付を義務付けるもの
- ▼平成十九年度鹿児島市一般会計予算  
〔新年度予算の概要をご覧ください〕

# 代表 質疑から

派には8つの会派に  
では8つの会派に  
代表質疑が行われ  
その中から一部を  
紹介いたします。

## 自由民主党新政会

平山 哲議員

### 市長の政治姿勢

**問** 平成十九年度予算編成に当たっての基本的考え方は。

**答** 住民自治の原則に立ち、市民との対話、パートナーシップを大切にしながら「市民が主役の鹿児島市の実現」を目指し、南の交流拠点都市としての本市の存在感をさらに揺るぎないものにしていくため、第四次総合計画に盛り込んだ施策を着実に推進することを基本に編成した。

### 交通局施設 リニューアル事業

**問** 平成十九年度の施設リニューアル事業の内容とJT跡地への電車部門等移転の今後のスケジュールは。

**答** 十九年度はJT跡地に移転する電車施設や局舎の規模、配置などの整備計画を策定することとしている。今後、施設設計、用地の購入、施設建設、施設移転を行うことになるが、具体的なスケジュールは十九年度に整備計画を策定する中で検討していく。

**問** バス部門についてのリニューアルの考え方は。

**答** 新たに区域を指定するに至った背景と理由は。

**問** 市税の増加の実態

**問** 個人市民税と固定資産税

**問** 低地区総合浸水対策緊急事業実施の基本的な考え方と今後のスケジュールは。

**問** 格差拡大について

**問** 格差拡大について

### 核島観光振興プラン

**問** 核島観光振興プランの重点戦略とアクションプランの内容は。

**答** 「核島の魅力発見」など八つの重点戦略とそれに基づく二十四のアクションプランを掲げている。重点戦略としては赤水探石場跡地の整備・活用、湯之平展望所のリニューアル、観光案内所の新設、足湯の設置などを考えている。

### 廃止バス路線対策

**問** 廃止バス路線についての今後の対応方針は。

**答** 昨年十一月八日から運行を開始したコミュニティバスなどの代替交通については、本年九月末までは路線廃止前の形態を基本とした現在の運行形態を継続する予定である。

### 自由民主党 幾村清徳議員

**問** 子育て支援策

**問** 十九年度、新たに設置する子育て支援部の目的と効果は。

**答** 次代を担う子どもたちが健やかに育まれる環境を整え、少子化対策にさらに取り組むために子育ての専門的な組織として設置した。このことにより、子育て支援体制がより一層充実・強化されるものと考えている。

### 核島架橋促進キャンペーン

**問** 「ポスト新幹線」構想に対する市長の見解は。

**答** 薩摩半島と大隅半島との交流促進や観光振興の面からは一つの夢のある方策であると思いが、国家的プロジェクトとしてとらえるべき面もあることから、可能性については全体的に長期的に研究していくものであると考えている。

### 甲突川右岸緑地整備事業

**問** 事業の概要と交通局鹿児島中央駅前バス運行センター用地の活用策は。

**答** 同用地および甲突川右岸緑地に情報発信機能等を有する施設や開放感のある空間の整備などを想定している。平成十九年度に基本計画策定に向けた検討を行い、二十年度以降に基本計画設計や整備工事に取り組むたい。基本計画の策定にあたっては交通局とも連携し、同用地の活用策も検討したい。

### 社会民主党 大森 忍議員

**問** 格差拡大について

**問** 市長は地域間格差、所得格差について拡大しつつあるという認識なのか。さらに格差の拡大は今後どのようなことが懸念されるか。

**答** 格差については大都市圏と地方といった地域間あるいは個人間において現れていると認識しており、その状況は今日においても続いているものと考えている。地域間あるいは個人間の格差が拡大し続けていくと、

### 吉田小学校の 移転新築予算

**問** 小・中連携教育に対する考え方は。

**答** 吉田小学校の移転新築に伴い、隣接する吉田北中学校との間で、小・中学校両方の免許を持つ教員を配置して、相互乗り入れ授業を実施するなど積極的に小・中連携教育の充実を図ってきたい。

### 夜間急病センター

**問** 夜間急病センターは利用者が増加している一方で、「夜間診療化してしまい、本来の目的である初期救急への対応に影響が出ないか心配だ」という声もあるようだが、同センターの現状と課題点、さらに対応策は。

**答** 夜間における市民の初期救急医療に大きな役割を果たしてきているが、急病患者以外の患者が見受けられることや、患者数の増加により緊急を要する患者への適切な診療体制の確保に配慮が必要である。十九年度においては小児科の患者が多い午後十一時までの間に、看護師を一名増員し、診療前に症状の聞き取りを行うことにより、症状によっては緊急を要する患者の診療を優先するなど対応していきたいと考えている。



夜間急病センター

**問** 新北部清掃工場稼働に伴う分別見直し

**問** 新北部清掃工場の稼働に伴い、リサイクルできないプラスチック類、ゴム類、皮革製品が可燃物となる分別見直しは本年一月から実施されたが、今回の分別見直しについて市民への周知に問題はなかったか。

**答** 今回の見直しは「もやせないごみ」の一部を「もやせるごみ」に変更したものであり、資源物である「プラスチック容器類」などを「もやせるごみ」に混入することがないよう、市民や報道機関等への説明には特に配慮してきた。今後とも一層の資源化のため、市民の協力をいただけるよう、さらに広報啓発に努めていきたい。

### 教育バウチャー制度

**問** 教育バウチャー制度は教育の市場化、教育の二極化、格差の異常な拡大等、さまざまな批判があるが当局の見解は。

**答** 同制度は保護者に対して学校の授業料に充当できる一定額の利用券(バウチャー)を支給することにより、児童生徒は自ら選択した学校で利用券を渡して授業を受ける仕組みと理解している。本市としては、通学の安全確保や地域の中で子供を育てていくという観点、地域に根ざした学校づくりなどの面から、指定学校制をとっている。

### 公明党 川野幹男議員

**問** 特殊勤務手当の改廃

**問** 今回の特殊勤務手当の改廃に当たっての考え方、内容、削減額、廃止を視野に入れた今後の取り組みは。

**答** 市民の目線に立って、市職員としての本来的な業務であると思われるものや特殊性が薄れてきているものなど市長事務部局で十二、水道局で一、市立病院で三の手当を廃止し、残す

(次頁上段へつづく)

手当についても支給要件など見直すものである。削減額は市長事務部局で約一億一千万円、水道局で約百八十五万円、市立病院で約三千万円を見込んでいる。今後の取り組みについては社会経済情勢や業務の変化等を踏まえ、適宜適切に見直しを行っていく。

### 高齢者の孤独死対策

**問** 本市でのひとり暮らし高齢者等の「孤独死」の発生状況は。またその対策に関わる本市の事業の利用状況は。

**答** 本市が把握している数では平成十七年度が四件、十八年度が九件となっている。その対策に関わる事業の十七年度実績は、在宅介護支援システム設置事業が千八百台、心をつなぐ訪問給食事業が二千二百一人、心をつなぐともしびグループ活動推進事業が九百六十四人(登録)

### 平成の会

竹之下たかはる議員

**問** 美術館運営の工夫、改善と企画展・公募展、館外展の活用

**答** 美術館の所蔵作品数、累計購入価格、年間経費、市民に開かれた美術館の工夫と企画展・公募展・館外展の開催は。

**問** 所蔵作品数六百七十一、累計購入価格約三億七千万円、過去三年間の平均年間経費は約二億六千万円である。企画展・公募展・館外展の展示を工夫、改善し展示の充実に努める。

### 行政サービスと人口移動、地域活力

**問** 行政サービスの調査の本市の評価と課題は。行政サービスの地域間格差、人口移動など地域活力に与える影響は。

**答** 本市の行政サービスは比較的高い状態であるが、この維持には財源が必要で、健全財政の堅持に努め、住民が行政サービスを比較して、このまちに住み続けたいと思われるような魅力あるまちづくりを目指す。

### 子育て支援策

**問** 児童手当の拡充内容と対象児童数・影響額は。

**答** 児童手当の拡充については三歳未満の第一子・第二子に対する手当額を現在の月額五千円から一万円に引き上げる。対象児童数は約一万一千八百人で、影響額は約五億七千八百五十万円を見込んでいる。

### 建築物耐震改修促進事業

**問** 分譲マンション構造計算書調査費補助事業の平成十八年度実績および今後の取り組みは。

**答** 十八年度は十二件の申請があった。当初見込みより多い申請があったこと等を考慮し、十九年度も引き続き実施する。

### ブックスタート事業

**問** ブックスタート事業の概要と実施方法、周知方法等は。

**答** 「鹿児島市子ども読書活動推進計画」に基づき実施する事業で、赤ちゃんのいる家庭に絵本を配布し、読み聞かせを通して子育てを支援するものである。実施方法は各保健センターでゼロ歳児のBCG予防接種の際に手渡す計画で、対象者には個別に案内する予定である。

### 特別支援教育の充実

**問** 特別支援教育指導員の平成十九年度の取り組みは。

**答** これまで指導員は特殊学級のみでの配置であったが、十九年度からは配置校の支援体制や児童生徒の実態を踏まえ、学校を回るべきと考えるが見解は。

### 市民クラブ

泉 広明議員

### 落札額および落札率の即時公表

**問** 入札の透明性を高めるためにも落札額、落札率を即時公表する考えは。

**答** 落札額の公表については現在、入札の状況を工事名、予定価格、落札額、落札者を示した入札執行調書を市政情報コー

が指導員を計画的に活用し、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒にもきめ細かな指導ができるようにする。

### 自民・市政クラブ

政田けいじ議員

### 鹿児島市初の企業誘致

**問** 平成二十二年度末には、九州新幹線鹿児島ルートの全線開業に合わせて鹿児島中央駅と新大塚駅を乗り換えなしで結ぶ直通列車が運行されるとのこと。県内外の観光産業、ひいてはレジャー産業の活性化につながり、経済効果が大きいと期待されると思う。

**答** 雄大な活火山である桜島を舞台に、市長が言われる「鹿児島らしさ」を活かした天然温泉施設やグルメゾーン、シネマワールド、ホテル、ゲーム、ボウリング、カラオケやリサイクルセンター

### 給食費未納対策

**問** 設置されている校納金未納対策委員会の活動状況とその効果をどうとらえているか。

**答** 給食費未納等の解消法について協議し、特に給食費の未納の多かった学校には取り組みの成果が上がった学校の事例を紹介し、未納校が抱えている課題について情報交換を行い、結果、未納金は減少しつつある。

### 市立病院の医療事故防止対策

**問** 平成十六年以降、医療ミ

ヨップなど、多彩な施設業種の総合レジャーランドを約一万坪の土地に誘致した場合、土地取得から約一年で完成し、地元採用人員も約三百五十人と経済不況の最中、大きな雇用促進につながると思うが、鹿児島市街地に総合レジャー産業を誘致する考えはないか。



シネマワールド(施設の一部)



天然温泉(施設の一部)

**答** 地域経済の活性化を図るため、企業誘致については新たな

**問** スによる事故は起きていないか。ヒヤリ・ハットの報告数の推移と事故防止に向けての対策は。

**答** 医療事故は十六年以降今日まで四件発生している。ヒヤリ・ハットの報告は十五年度千四百三十二件、十六年度二千六百二十件、十七年度二千五百八十九件で増えている。今後は本年設置する医療安全管理室で安全管理を総括し、事故防止になお一層努めていきたい。

### 日本共産党

竹原よし子議員

### 多重債務(サラ金)の解決に行政の援助(奄美方式)の採用を

**問** いわゆるサラ金の利用者は全国で千四百万、うち多重債

な企業誘致推進方を策定するとともに、取り組み体制を強化し、積極的に推進していくこととしたところである。総合レジャー産業の進出については新たな雇用機会が創出され、経済効果をもたらすものと考えられるので情報提供等を行っていきたい。

### コールセンターの導入

**問** 市民からの電話による問い合わせに一カ所対応しようとするコールセンターを本市でも平成二十年一月から設置する予定で、内容も十八年一月四日から運用を開始した京都市のコールセンターに酷似しているようであるが、運用形態など構想の内容は。

**答** 運用形態については、施設・設備、オペレーター業務は専門業者へ委託し、また運営については市民からの電話、FAX、

### 住宅用火災警報器の設置

**問** 消防法により個人住宅に

**答** 設置状況の検証については戸別訪問による火災予防検査で確認することとしている。設置されていない住宅については、さらに指導を重ねていきたいと考えている。

**問** だるま式負担増で耐えがたい状況になっている。このような時こそ市は防波堤となって市民を守るべき。市民とともにこれまで改善を求めてきた「母子・父子家庭への施策」「敬老パス・すこやか入浴事業」「愛のふれあい会食事業」「障害者控除対象者認定書の手続き」の状況は。

**答** 父子家庭への独自の経済的支援は今後も国へ要望する。敬老パスは低所得者への対策として年五千円の負担軽減を行っている。すこやか入浴事業は四月から二十四回から三十回利用に拡充する。愛のふれあい会食事業は二百円に戻した。障害者控除の認定の周知を図る。

### 「貧困と格差」ひろがる国政と本市の対応

**問** 市民のくらし・福祉は雪



# 個人質疑から

第1回定例会では14人の議員が個人質疑を行いました。その中から一部を紹介します。質疑者は次のとおりです。

- 山井小堀 (日本共産党)
- 下川みさ (自民・市政クラブ)
- ひさ子 (無所属)
- とみ剛 (自由民主党)
- みさ子 (平成の会)
- 純則 (社会民主クラブ)
- えがた (市民クラブ)
- う北反山 (日本共産党)
- 平のくち英一 (無所属)
- 尾中 (自由民主党新会)
- 大協 (公明党)
- ふじ (無所属)
- た (自由民主党新会)
- じ (市民クラブ)

## 新市の速やかな一体化に向けて

**問** 平成十九年度予算における旧五町域の特筆すべき事業と新市の速やかな一体化に向けた市長の決意は。

**答** 旧五町域の特筆すべき事業としては、緑豊かな田園地帯や森林資源等を活用しての「グリーン・ツーリズム推進事業」、旧五町域のイベントや自然、文化などの魅力を紹介し、市民レベルでの活発な交流を促進する「かごしま再発見地域めぐり事業」や「市内交流事業」などのほか、教育環境の向上を図るため従来の地域に加えて、吉田・喜入・松元・郡山地域においても学校の特別教室等にクローラーを設置することとしている。今後においても新市の速やかな一体化、均衡ある発展を最重要課題として、すべての市民に合併してよかつたと思っていただけのまちづくりを推進していかなければならないと考えている。

## 姉妹友好都市との新たな交流のあり方

**問** 姉妹友好都市盟約締結から永年が経過し、本市や相手都市との新たな交流のあり方について、市長の見解は。

**答** 姉妹友好都市との交流は本市の国際交流の原点であり、さまざまな交流を通して、相互理解が深まり、友好親善が図られるとともに、地域の国際化や活性化などに大きく貢献しており、今後も姉妹友好都市との間で培われた相互理解や信頼関係を基礎として、これまで以上に経済・文化・観光などの交流を促進していくことが重要であると考えている。



姉妹都市パース市での観光物産PR

そのような中、本年五月に長沙市へ初めて民間主体のチャーター便が運航予定であるなど新しい動きもあり、今後とも民間

## 旧町から引き継いだ分譲住宅地の販売

市の事情、国際環境も大きく変化していることから、親善・友好だけでなく、経済・文化・教育・観光の交流など民間の活動も生かした双方に実益のある交流を目指すべきであると思うが、市長の見解は。

**問** 合併に伴い旧町から引き継いだ分譲住宅地の販売状況は。今後引き継いだ分譲住宅地をどのように販売していくのか。

**答** 合併時、旧町から引き継いだ分譲住宅地は三十三区画あったが、これまで十区画を販売し、現在二十三区画が残っている。残った区画については、平成十九年度に社団法人鹿児島県宅地建物取引業協会と「市有地売却の媒介に関する協定」を締結し、同協会会員から購入者のあつせんを受け販売を行うことにしている。今後民間の力を活用し、さらに積極的な販売に取り組んでいきたい。

## スクール・キャンパス消費生活啓発事業

**問** 新規事業のスクール・キャンパス消費生活啓発事業の概要は。

**答** 多重債務や若者の消費者トラブルを未然に防止するためには、子供のころからの啓発が



青色防犯灯(真砂本町)

重要であることから、小・中・高校、大学それぞれの年代に応じた啓発資料の作成配布やキャンパスでの消費生活パネル展、出張講座などを実施するものである。今後とも年齢に応じた効果的な啓発事業に取り組んでいきたい。

**問** 青色防犯灯犯罪抑止調査研究モデル事業導入の経過と今後の事業展開は。

**答** 同事業の導入経過については、イギリスのグラスゴーや奈良県などで青色防犯灯を設置した結果、犯罪等が減少したことや、地域や県警から青色防犯灯設置に関する要望があつたことなどから、財団法人地方自治研究機構に調査研究モデル事業として要望し事業採択されたことと併し今回予算計上したものである。

今後は犯罪の発生頻度や安心安全なまちづくりに関する地域の協力的体制などを考慮しながら、モデル地域を二カ所選定し、地域内の犯罪の発生件数を年間比較できるように県警の協力を得ながら調査する。その結果、犯罪抑止等の効果が認められれば、防犯灯を管理している町内会等にその効果を説明し、青色防犯灯の普及・啓発に努めていきたい。

## 街なかでの禁煙・分煙および受動喫煙の防止

**問** 街なかの公共の場所等で禁煙・分煙を徹底し、受動喫煙の防止を図る考えは。また路上禁煙地区をさらに拡大する考えは。

**答** 禁煙・分煙および受動喫煙防止の徹底については、これまでパフレット等を作成し普及・啓発を行うとともに、鹿児島市健康づくり推進市民会議の構成団体との一体的な取り組みを推進してきているが、今後とも各関係機関と連携を図りながら、推進していく必要があると考えている。

## 特定不妊治療費助成

**問** 特定不妊治療費助成の内容と平成十九年度からの拡充内容は。

**答** 特定不妊治療費助成は、医療保険が適用されず高額となっている体外受精および顕微授精以外には妊娠の望めない夫婦に対して治療費の一部を助成することにより患者負担を緩和するもので、一年に最高十万円まで通算年間助成する制度である。十九年度からは一回の治療につき最高十万円の助成を一年で二回まで、通算年間適用が受けられるように制度を拡充する。また所得制限についても、年間の夫婦合算所得額を六百五十万円から七百三十万円に緩和する。

## 健康検査・各種検査の拡充

**問** 平成十九年度における健康検査・各種検査の改善・拡充される内容は。

**答** 子宮がん検診のセット検査については、会場の増設により土日を含めた実施回数が増えるほか、基本健康検査に肺がん・大腸がん・胃がん検診を同時に受診できるセット検査については、会場の増設により実施回数の増を図るとともに、新たに日曜日に受診できるようにするなど検診体制の充実を図る。

また医療機関で乳がん検診の視触診を受診した方には、集団検診会場でマンモグラフィ検査も受診していただく方式を導入し、乳がんの早期発見に努める。このほか、医療機関での肝炎ウイルス検査、大腸がん検診などにおいて、自己負担金を減額し、より受診しやすい環境を整えること、JR九州が使用する部分を除き市が一括して借り上げて活用する、②永田川のJR谷山駅へのアクセスとして活用する計画としていることから無償で市へ譲渡してもらおうと協力が整っている。

## 谷山地区連続立体交差事業

**問** 谷山地区連続立体交差事業と谷山駅周辺地区土地区画整理事業との連携は。また連続立体交差事業に伴う鉄道高架下および永田川のJR橋の活用策は。

**答** 両事業は副都心のまちづくりにとって最も重要な事業であることから、その整備効果を一体的に発現させるためにも、基本設計や実施設計、施工等の各段階において連携を図ることが重要であるとされている。そのため、平成十八年七月七日に両事業の都市計画決定を同時に行つたところであり、今後とも両事業の推進に当たっては十分連携を図っていきたい。

またJR九州とは①鉄道高架下の空間は駐輪場や駐車場その他公共施設等への利用が考えられることから、JR九州が使用する部分を除き市が一括して借り上げて活用する、②永田川のJR谷山駅へのアクセスとして活用する計画としていることから無償で市へ譲渡してもらおうと協力が整っている。

## 環境問題に対する市役所の取り組み

**問** 本市の事業に関わる業者に対する二酸化炭素削減のための取り組みは。

**答** 工事請負業者に対しては工事発注時の特記仕様書において積極的な再生資材の利用や排出ガス対策型機械の使用など、指定管理者に対しては募集時の業務指針において地域の環境保全活動への協力や従業員への意識啓発など、委託業者に対しては節電・節水やごみ分別の徹底など、環境への配慮を求めている。



路上禁煙地区の路面表示

り会の協力が不可欠であることから、関係する通り会などとも十分協議を行う中で進めていきたい。

### 森林・林業振興プラン

**問** 林業振興の計画である本市森林整備計画をより具体的に進めるため、森林・林業振興プランを策定すべきと考えるが市長の考えは。

**答** 森林法に基づく森林整備計画は、市町村が主導的な立場に立って地域の実情に即した森林の整備を図るといった観点から、造林から伐採までの基本的な方向などが定められており、本市でも平成十六年度から二十年度までの五カ年計画を策定している。

同プランについては、森林整備計画等を具体化するものと考えられるので、担当部局に検討させたい。



市内の整備された森林

### 新幹線全線開業を見据えた観光施策

**問** 維新ふるさと館体感ホールリニール事業および甲突川右岸緑地整備事業の目的とスケジュールは。

**答** 両事業は九州新幹線の全線開業を見据え、ナポリ通りのライトアップや歴史ロード、維新ふるさと館(仮称)など、一体となり、観光客や市民が鹿兒島の歴史を体感し、また昼夜を問わず快適に回遊できる空間として整備するものである。

### 特別支援教育

**問** 障害のある児童生徒に対して、学校生活上の介助や学習活動上の支援などを行うため、国が配置を予定している特別支援教育支援員の確保について市長の考えは。

維新ふるさと館体感ホールリニール事業は平成十九年度に基本計画の策定および基本実施設計、二十年度以降にリニール工事、甲突川右岸緑地整備事業は十九年度に基本計画の策定、二十年度以降に基本実施設計や整備工事に取り組んでいきたい。

### 委員会から

#### 交通局施設リニール事業

**問** 交通局施設リニール事業のシミュレーション上のスケジュールは。またその財源はどうするのか。

**答** 局舎と市電については平成十九年度に整備計画の策定、二十一年度設計と土地取得、二十二年年度から二十四年度までの三年を建設工事としており、二十五年にJT跡地に移転する計画としている。なお市バスについては敷地が未定であることから、現在のところ市電の完成時期と合わせる形のスケジュールとなっているが、整備計画の策定については二十一年度に行う予定である。

なお財源は移転後に売却する予定である交通局本局用地の売却収入を充てることとしている。  
**問** 同じリニール事業のシミュレーションでは局舎・市電と市バスが別々の敷地に移転する

### 答

障害のある子どもたちにもきめ細かな指導・支援を行い、自立や社会参加に向けて、それぞれの子どもが持っている力を高めていくことは極めて重要である。本市としてはこれまで特殊学級の施設設備を充実し、また国の支援員と同じ役割を担っている特別支援教育指導員を平成十五年度から配置し、教育上特別な配慮を必要とする児童生徒に対して支援体制充実に努めてきた。国としては十九年度から二年間で、全公立小・中学校の敷地に相当する支援員を配置できるように新たな財政措置を予定しており、今後は国の動向を踏まえ、関係機関等の連携による

ことになっているが、その理由は。市電施設の移転先については現在の市電沿線にあり、また整備工場等が工業系用途地域になければならないが、今回市が一括して購入することになったJT跡地がこれらの条件を満たすことから、同跡地に市電施設と局舎を移転しようとするものである。市バスについては、仮に同跡地に移転した場合、中洲通りの交通渋滞を考えると効率的な運行が困難なこと、また新しい市立病院の隣接地に移転した場合に排気ガスの問題などが生じることが懸念されるため、現時点では別の敷地に移転することを考えている。

#### 緑の街並みづくり推進事業

**問** 平成十八年七月から開始した民間建築物屋上・壁面緑化助成制度の実績とそれに対する認識は。また今後の対応は。

**答** 屋上緑化については十九年三月十四日現在で二十一件の実績があったが、壁面緑化につ

### 市立病院の安全管理と医療連携

**問** 今回、市立病院は医療安全管理室および医療連携室を設置しているが、これまで医療の安全管理や他の病院・診療所との医療連携をどのようにしてきたか。また今回の組織見直しの理由は。

支援の状況や各学校の取組状況などを総合的に判断しながら、教育委員会に本市として必要な支援員を確保するよう検討させていきたいと考えている。

安全管理については医療安全管理指針に基づき、医療安全

いでは申し込みがなかったところである。その理由としては、屋上緑化については夏場の室温低下等の効果があった方の感想がマスコミ等で紹介されたことを機にさらに申請数が増えたことから、これが最も大きな要因ではないかと考えている。一方、壁面緑化については植栽およびフェンス設置等に要する経費が補助対象になるが、このことも含め壁面緑化そのものについてもPRも不足していたと考えている。

今後は錦江湾公園の花祭り等市が主催する事業においてパネルを展示するなど啓発に努めるとともに、関係機関とも連携する中で壁面緑化の効果をPRしより多くの方々に活用されるよう取り組んでいきたい。



#### 鹿兒島市立少年合唱隊

**問** 鹿兒島市立少年合唱隊の運営形態等の見直し方針が示されているがその内容は。  
**答** 同合唱隊については、その

全管理委員会、リスクマネジメント委員会およびリスクワーキンググループの会議を定期的に行い、医療事故の防止対策等に取り組んでいる。また医療連携については診療科ごとに他の病院などとの連携を図るとともに、医療ソーシャルワーカーが福祉部門等との連絡調整を行ってきている。

今回の新たな組織の設置はこれらの業務の活動拠点として引き続き、医療安全と医療連携の拡充に取り組むためのものである。



### 市議会からのお知らせ

**本会議の傍聴**

本市議会では各会派代表による「代表質疑」と「個人質疑」があり、「代表質疑」は第1回定例会、第3回定例会および市長改選後初の定例会に、「個人質疑」は毎定例会ごとに行っています。ぜひ傍聴にお越しください。

- ・耳の不自由な方のために議場のマイクの音を聞き取りやすくするワイヤレスの専用補聴器を用意しています。
- ・手話通訳を希望される方は5日前までにご連絡ください。
- ・身体障害者の方は盲導犬、介助犬、聴導犬などの補助犬と同伴で傍聴できます。

詳しいお問い合わせは  
市議会事務局総務課まで  
☎099-216-1450(直通)

**本会議の中継**

本会議の様態や行政情報を、市政情報配信システムにより配信しています。同システムで、本会議の開会時から閉会時までの様子が、本庁や9支所のロビーでご覧いただけます。

詳しいお問い合わせは  
市議会事務局政務調査課まで  
☎099-216-1454(直通)

**請願と陳情**

市政に対する市民の要望や希望を直接反映させるための方法として、どなたでも請願書や陳情書を議会に提出することができます。本市議会では本市の議員の紹介がある場合を「請願」、議員の紹介がないものを「陳情」として扱っています。

詳しいお問い合わせは  
市議会事務局議事課まで  
☎099-216-1456(直通)

**市立病院のあり方及びJT跡地の活用策等に関する調査特別委員会設置**

市立病院のあり方及びJT跡地の活用策等について調査検討を行い、関係当局への意見反映をはかるため、2月5日に「市立病院のあり方及びJT跡地の活用策等に関する調査特別委員会」を設置し、委員の選任を行いました。

▼委員は次のとおりです。  
(◎委員長 ○副委員長)

◎ 鶴 蘭 勝 利	黒木 すみかず
○ 長 田 徳太郎	上 門 秀 彦
○ 中 尾 まさ子	ふじた 太 一
○ 志 摩 れい子	平 山 哲
○ う え だ 勇 作	竹之下たかはる
○ ふ く し 山ノブスケ	平 山 たかし

今回から市議会だよりは市民のひろばと一緒に配布いたします。今後ともよろしくお願ひします。

議案等に対する各会派等の表決態度

○賛成 ×反対

Table with columns for item names and voting results for various parties: 自由民主党新会派, 自由民主党, 社会民主党, 公明党, 自民・市政クラブ, 市民クラブ, 日本共産党, 平成の会, 無所属A, 無所属B, 無所属C, and 結果. Includes a '議案' section with many items and a '陳情' section with 3 items.

Table listing party names (会派名等), number of members (議員数), and member names (所属議員名) for each party.

\*平成19年2月28日に「市政クラブ」から「自民・市政クラブ」へ会派の名称変更

「市議会だより」に対するご意見・ご感想は 市議会事務局政務調査課まで ☎ 099-216-1454(直通)